

【テーマ】 性的マイノリティの人権

【発行月】 R5.1

ブラボー!! ニッポン!!

サッカーW杯 熱狂の裏にある人権問題

11月、4年に一度のサッカーの祭典「ワールドカップ」が開催され、日本は強豪ドイツやスペインを撃破するなど躍進し、大いに盛り上がりました。しかし、その熱狂の裏で、開催国と欧米の出場国との文化的な価値観の違いや思想のあつれきが表面化しました。

華々しい舞台の裏で

開催国カタールはイスラム教国であり、イスラム法に基づいた法律や制度、伝統的な文化や慣習で国家や社会が成立しています。

公共の場での飲酒禁止や同性愛行為は違法、女性の権利や自由は制限され、さらにスタジアム建設に関して、10年間で移民労働者6千人以上が死亡したとの報道など、各国から人権問題について強く非難されていました。

大会前、ドイツなど欧州7チームが差別撲滅を訴え、性的少数者を想起させる「ワンラブ腕章」の使用を予定しましたが、FIFA(国際サッカー連盟)が処分警告したことにより断念しました。

さらに、FIFAは騒動鎮静化のため「サッカーと政治は切り離すべき」と、開催目前に32チームに書簡を送付しました。

すべての場所で守るべきもの

これに対し、欧州サッカー連盟は次のように回答しました。

「どの国にも固有の問題や課題がある。しかし、多様性や寛容さを認めるとは、人権を支持することである。人権とは普遍的なものであり、すべての場所で守られるべきものである。」